

博物館だより

No.184



令和4年3月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

| 博物館休館日カレンダー | | 2022年 3月 | | | | | | |
|-------------|----|----------|----|----|----|----|---|--|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | |
| 27 | 28 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | |
| 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | | |
| 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | | |
| 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 1 | 2 | | |

休館日 ※情報はR4.2.16現在

◆博物館NEWS 令和3年度第36回作品公募

みやこ町少年少女俳句大会の結果について

大会概要と今期入賞作品の紹介

京都平野に春の訪れを告げる名物行事「みやこ町三重塔まつり」。残念ながら今年もコロナ禍により中止となりましたが、これを記念する文化行事「少年少女俳句大会」は、表彰式を行わない形で昨年同様に開催されました。

その結果、コロナ禍にも関わらず、多くの小中学校から応募をいただき、次のような成果をおさめることができました。

- ・応募総数：八〇九〇句
(参加児童生徒総数：三六七六八)
- ・内訳 小学校：四八四五句
中学校：三二四五句
(うち入賞・入選句：二二二句)

ご協力頂きました児童生徒の皆さんをはじめ、学校・保護者や協力機関等関係各位に厚くお礼を申し上げます。

さて、大会の結果ですが、例年ご協力頂いています豊津俳句会(岩井小夜子代表)の皆さんによる審査の結果、以下の作品が最優秀・特選句として選ばれました。

●小学校の部

- ・特選「小宮豊隆賞」
テントウムシばくの指先けて空
犀川小三年 進 志斗
- ・特選「三四郎賞」
書き初めの緊張感にこじむ墨
荻田小六年 杉下 真麻

・特選「蓬里雨賞」

石橋のおくにもみじと赤いとう
行橋小三年 朝比奈 大和

●中学校の部

・特選「小宮豊隆賞」

渡り蝶等賞寺に来た大使かな
行橋中一年 加来 桜

・特選「三四郎賞」

振り向けば紅葉かつ散る通学路
泉中一年 木下 雛子

・特選「蓬里雨賞」

日がさして緋色に光る林檎かな
今元中二年 大丸 舞歌

以上の句をはじめ入賞選句(教育委員会賞・秀逸計49句)は短冊様の木札に記し、豊前国分寺跡公園の梅の枝等に下げられていますので、梅見を兼ねてぜひご覧下さい。



▲特選句を記す木札(右から上記掲載順に該当句の札)木札は選者・岩井小夜子先生に染筆いただきました

◆講座・教養・催し物カイド 3月の歴史講座

【漢詩紀行講座】

3月5日(土) 9時30分～

【古文書講座】

3月12日(土) 10時～

【古典かな講座】

3月19日(土) 9時30分～

【みやこ学講座】

3月26日(土) 10時～

※都合により(新型コロナウイルス感染拡大防止対応を含む)日程等変更となる場合があります。

※見学会等は別途ご案内します。

開催中止等決定イベントのご案内

博物館や文化係が所管・支援する文化事業のうち、新型コロナウイルス感染拡大防止対応に伴い、開催の中止等が決定したイベントが発生しています。2月16日(水)現在における該当事業は左記のとおりとなりますので、ご参考下さい。

なお、このほかに対応が確定したものが発生した場合、町や当館の広報紙・HP等で順次お知らせするよういたします。

また詳細について不明の点等ありましたら博物館(033-4666)までお問合せ下さい。

①文化芸術フェア(文化協会事業)

3月5・6日(土・日)開催予定を中止

②歴史たんけんウォーク(友の会共催事業)

3月13日(日)開催予定を中止



1月の業務日誌から

1月11日(火)、犀川帆柱にある永沼家住宅(重要文化財)修理の竣工検査を行いました。同住宅は屋根の棟部分を中心にホテと呼ばれる棟飾り等部材の傷みが進んだため、その回復のための工事を行っていました。

1月26日(水)、この日が文化財防火デーであることに因み、博物館で館内防火訓練を行いました。訓練では出火を想定した模擬消火訓練や避難誘導と共に、普段はあまり意識しない防火設備を改めて点検確認しました。



▲館内シアターのモニターから出火した想定訓練備付けの防火機器を素早く取り出す訓練等しました



▲屋根棟部分の傷んだホテ(茅束で造った棟飾り)などの取替作業の様子 茅は遠く阿蘇から調達しました

みやこの歴史発見伝 145
みやこの猫ものがたり ③

「猫」の足跡から探るみやこの歴史
— その3 —

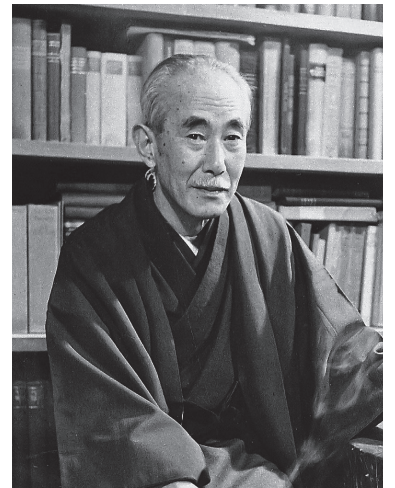
「小宮豊隆資料」について

みやこ町犀川統命院にある平成豊隆資料の「東犀川三四郎駅」は来年3月で開業30周年を迎えます。この駅名は、日本を代表する文豪、夏目漱石の小説「三四郎」のモデルとされる「小宮豊隆」がこの駅近くの久富出身であることに由来するものです。

夏目漱石には数多くの門下生が名を連ねていましたが、中でも特に小宮豊隆を可愛がったと伝えられ、現在も夏目漱石を研究する上で、欠かすことのできな人物として注目されています。



夏目漱石肖像(みやこ町歴史民俗博物館蔵)



小宮豊隆(1884~1966)

彼が収集した夏目漱石の関連資料は国内外の漱石研究者にとつて「第一級の資料」に位置付けられています。この一連の資料を小宮豊隆のご遺族から故郷のみやこ町へ寄贈いただき、平成28年にはみやこ町の文化財に指定されています。980点から構成される資料の中には旧千円札の肖像画や教科書等に掲載されている最も有名な漱石の写真

夏目漱石と「猫」の出会いについては回想を含めた記録に次のような記述があります。明治37年(1904)、一匹の黒猫(暗灰色ベースに黒斑の毛色を持つキジ猫という説もある)が夏目家に迷い込み、台所に住み着きました。漱石の妻、鏡子夫人は何度も「猫」を追いかけ外に連れ出しましたがすぐに戻ってきます。これを見た漱石が言った「ここに

いたいのなら置いてやれ」という一言により「猫」は夏目家の一員として迎えられます。この「猫」は寝て

(左上)も含まれています。当館を代表するこれらの資料について、調査・研究を目的として遠方から足を運ぶ研究者や来館者を見ることができ、今回は、博物館に収蔵さ

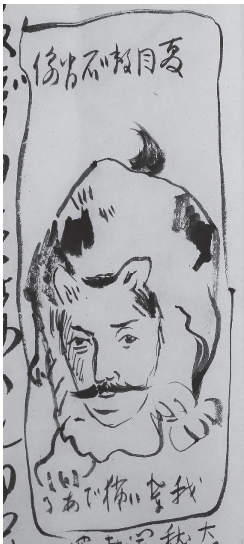
いる漱石の腹や背中に乗って寝ることもあったとか。漱石はこの時イギリス留学時に悪化した「心の病」を患っており、家族でも近寄りたがたい状況でしたが、このような猫のふるまいに対しても、怒ることはなかったと伝えられます。また、この屈託のない猫の姿に心が癒され、結果的に「心の病」の克服につながったという見方もされています。当初は飼うことに反対していた鏡子夫人も、「全身黒い猫は福猫」という言葉を耳にしたことから、猫の食事内容をグレードアップするなど、とても可愛がったと伝えられます。

夏目漱石と「猫」

夏目漱石と主人公「猫」の出会いについては回想を含めた記録に次のような記述があります。明治37年(1904)、一匹の黒猫(暗灰色ベースに黒斑の毛色を持つキジ猫という説もある)が夏目家に迷い込み、台所に住み着きました。漱石の妻、鏡子夫人は何度も「猫」を追いかけ外に連れ出しましたがすぐに戻ってきます。これを見た漱石が言った「ここに

長編小説「吾輩は猫である」

このような中、漱石は、高浜虚子の勧めで俳句雑誌「ホトトギス」に作品を掲載することになりました。明治38年(1905)1月、漱石はこの猫を題材にした長編小説「吾輩は猫である」を執筆し、本格的な作家デビューを果たします。猫の視点からみた人間模様を描き出した作品は空前の大ヒット作となります。



夏目漱石直筆 猫のイラスト(みやこ町歴史民俗博物館蔵)

とつて文字どおりの「福猫」となりましたが、小説の冒頭に「名前はまだ無い」とあるように、最期まで名前が付けられることはありませんでした。

(井上信隆)

当時の新聞には漱石の顔を刺した猫の風刺画が掲載されました。漱石は犀川村(現みやこ町犀川)に帰郷していた小宮豊隆に宛てた手紙の冒頭に、この風刺画を自身で模写した「イラスト」を掲載しています。紙幣や教科書に登場する有名な人物のユーモラスな一面を垣間見ることができ、資料としても注目されます。漱石に「病の治癒」と「ベストセラール小説」をもたらすことになったこの黒猫は、夏目家にとつて文字どおりの「福猫」となりましたが、小説の冒頭に「名前はまだ無い」とあるように、最期まで名前が付けられることはありませんでした。